

「ヘブル人への手紙のテーマ」

ヘブル 1 : 1～3

1. はじめに

(1) 著者

①いくつかの名が上げられてきた。

*パウロ

*ルカ（パウロがヘブル語で書いたものを、ルカがギリシア語に翻訳した）

*バルナバ

*アポロ

*ピリポ

*ヨハネ

*マルコ

②著者は、ユダヤ人である。

*ロマ 3 : 2 によれば、ユダヤ人には神のことばが委ねられている。

*ユダヤ人でなければ、旧約聖書やユダヤ的習慣をここまで知り得ない。

③著者は、第 2 世代のメシアニック・ジューである。

Heb 2:3 私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができるでしょう。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、

Heb 2:4 そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。

*これは、パウロの著作説を否定するものではない。

(2) 受取人

①著者と同様に、第 2 世代のユダヤ人信者たちである。

*旧約聖書からの引用が多いのは、そのためである。

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、ユダヤ教に回帰しようとしていた。

③異邦人信者なら、ユダヤ教に回帰する心配はないが、ユダヤ人はそうではない。

④著者と受取人との間には、交流があった。

*つまり、ある特定のグループのユダヤ人信者である。

Heb 13:19 また、もっと祈ってくださるよう特にお願いします。それだけ、私があなたがたのところに早く帰れるようになるからです。

Heb 13:23 私たちの兄弟デモテが釈放されたことをお知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼といっしょにあなたがたに会えるでしょう。

(3) 執筆時期

①紀元 70 年に神殿が滅びる前に書かれたと思われる。

＊神殿崩壊への言及がない。

＊神殿で祭儀が行われていたことが前提となっている。

②テモテはまだ生きていた（ヘブ 13 : 23）。

(4) ヘブル人への手紙の重要テーマ

①新約と旧約の関係

②キリストの受肉

③キリストの贖罪死

④キリストの祭司職

⑤信仰の本質

⑥信仰者の生活

2. アウトライン

(1) むかし神が語られた方法（1 節）

(2) 終わりの時に神が語られた方法（2 節 a）

(3) 御子の至高性（2b～3 節）

3. 結論：この書簡の目的

(1) 信仰の後戻りをしようとする人への励まし

御子の至高性について学ぶ。

I. むかし神が語られた方法（1 節）

Heb 1:1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、

1. 挨拶なしに、すぐに本論に入る。

(1) 1～3 節は、この書簡のテーマの紹介である。

①御子の至高性がテーマである。

②著者は、御子の素晴らしさを語らずにはおれない。

(2) 神は語られた。

①啓示の源は神である。

②それゆえ、神のことばに耳を傾けるのが私たちの責務である。

2. 神は、どのように語られたのか。

(1) 啓示のタイミング：「むかし」

- ①「かつて」（新共同訳）
- ②「終わりの時」との対比で語られている言葉である。

(2) 啓示の対象：「父祖たち」

- ①「父たち」
- ②神のことばは、ユダヤ人たちに委ねられた。

(3) 啓示の仲介者：「預言者たち」

- ①彼らは、神のことばを委ねられ、それを民に伝えた人たちである。
- ②彼らは聖霊に動かされて神のことばを語った（2 ペテ 1：19～21）。

(4) 方法：「多くの部分に分け、いろいろな方法で」

- ①「多くの部分に分け」とは、量的な要素への言及である。
 - *神は、一時にすべての真理を啓示されたわけではない。
 - *それぞれの預言者に、ある部分が委ねられた。
 - *時とともに、啓示が進展した。
 - *これを漸進的啓示という。
- ②「いろいろな方法で」とは、質的な要素への言及である。
 - *夢、幻、天使、直接の語りかけなどを通して神の啓示が届けられた。
- ③神は語られたが、それは完結した啓示ではなかった。

II. 終わりの時に神が語られた方法（2 節 a）

Heb 1:2a この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。

1. 神は、どのように語られたのか。

(1) 啓示のタイミング：「この終わりの時」

- ①これは、旧約聖書の用語である。
- ②御子の到来とともに「終わりの時」が始まった。
- ③ユダヤ教のラビたちは、メシア時代のことを「終わりの時」と表現していた。
- ④旧約聖書の啓示は漸進的啓示であるが、新約聖書の啓示はその完成版である。
- ⑤旧約聖書の預言が指し示していた御子が、ついに現れた。

(2) 啓示の対象：「私たち」

- ①著者とこの手紙の受取手
- ②メシア時代に生きる私たちは、最高に恵まれた時代に生かされている。

(3) 啓示の仲介者と方法：「御子」

- ①預言者でも天使でもなく、御子が啓示の仲介者となられた。
- ②終わりの時の啓示が信頼できる理由は、御子の至高性にある。
- ③次に、御子の至高性を証明する7つの要素が語られる。

Ⅲ. 御子の至高性（2b～3節）

Heb 1:2b 神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

Heb 1:3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。

1. 御子は、万物の相続者である。

- (1) 御子は、父なる神から与えられた権威をもって全宇宙を統治しておられる。
 - ①このような統治権を実施できるのは、御子が神だからである。
 - ②御子は、神が人となられたお方である。

(2) 詩2：7～8

Psa 2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。／主はわたしに言われた。／『あなたは、わたくしの子。／きょう、わたしがあなたを生んだ。

Psa 2:8 わたしに求めよ。／わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、／地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。

- ①私たちは、御子との共同相続人とされた。
- ②それが、私たちが御国を相続することの根拠である。

2. 御子は、父なる神とともに世界を造られたお方である。

(1) 「世界」（アイオウン）

- ①時代という意味がある。
- ②御子は、被造世界だけでなく、歴史の展開も支配しておられる。

(2) 神は、さまざまな時代を通してご自身を啓示してこられた。

- ①さまざまな時代とは、ディスペンセーションのことである。

3. 御子は、神の栄光の輝きである。

(1) 御子は、神の栄光を輝かせるお方である。

①ユダヤ人たちは、目に見える神の栄光をシャカイナグローリーと呼んだ。

②御子は、父なる神と同じ神性を持った神である。

(2) ヨハ 1 : 14

Joh 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

4. 御子は、神の本質の完全な現われである。

(1) 訳文の比較

「神の本質の完全な現れであり、」（新改訳）

「神の本質の完全な現れであって、」（新共同訳）

「神の本質の真の姿であって、」（口語訳）

「神の本質の像(かた)にして、」（文語訳）

「the express image of his person,」（KJV）

(2) 「現れ」はギリシア語で「カラクテイル」である。

①印を押しつけてコインを造る。その道具を「カラクテイル」という。

②御子は、神の本質がそのまま現れているお方である。

③御子を離れては神を知ることにはあり得ない。

④御子を見た者は、神を見たのである。

5. 御子は、その力あるみことばによって万物を保持しておられる。

(1) この役割は、常に御子のものであった。

①「**万物を保っておられる**」とは、単に支えていることではない。

②御子は、歴史をゴールに向けて導いておられる。

(2) コロ 1 : 15～17

Col 1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

Col 1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も權威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

Col 1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。

6. 御子は、罪のきよめを成し遂げられた。

(1) 著者は、御子を祭司として紹介してる。

- ①このテーマは、5～7 章でさらに詳細に解説される。
- ②罪のきよめを行うのは、祭司の役割である。

(2) 御子が行う罪のきよめは、過去に起こった事実である。

- ①ギリシア語のアオリストという時制
- ②過去に一度限り起こったことを表わす。
- ③これは、再度繰り返す必要のない行為である。
- ④これは、外面だけのきよめではなく、罪のきよめである。

7. 御子は、父なる神の右の座に着座し、大祭司としてとりなしをしておられる。

(1) 御子は、権威ある地位に着いておられる。

- ①御子は、罪のきよめの御業を完成された。
- ②御子は、父なる神と同じ権威を持っておられる。

(2) 1 ペテ 3 : 22

1Pe 3:22 キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

(3) ロマ 8 : 34

Rom 8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。

結論：

1. この書簡の目的：信仰の後戻りをしようとする人への励まし

(1) メシアニック・ジューたちは、昔も今も、迫害に会う。

①ユダヤ人たちが戻っていく先は、ユダヤ教である。

*口伝律法の教え

②あるいは、旧約聖書である。

(2) 試練を乗り越えるために知るべきこと

- ①御子は、旧約聖書が指し示していたお方である。
- ②御子は、神の啓示の完成となられた。
- ③御子は、大祭司として取りなしておられる。

(3) 私たちへの適用

- ①試練の原因は分からなくても、御子の至高性は理解できる。
- ②古い価値観や習慣に戻る必要性は、全くない。

「御使いに勝る御子（1）」

ヘブル 1 : 4～14

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

(2) ここから本論が始まるが、その最初に、御使いのテーマが出てくる理由は何か。

- ①紀元 1 世紀のユダヤ教内には、天使論を重視するラビたちが相当数いた。
- ②特にエッセネ派では、天使論が重要なテーマとして論じられていた(死海写本)。
- ③ディアスポラのユダヤ人の中には、天使が天地創造に関わったとする者もいた。
- ④パウロは、その見解を否定している。

Col 1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

- ⑤この手紙の著者は、御子が御使いに勝るお方であることを証明しようとする。
- ⑥その手法は、ヘブル語聖書（旧約聖書）からの引用である。

2. アウトライン

- (1) 御子というタイトル（4～5 節）
- (2) 御子の礼拝（6 節）
- (3) 御子の不変性（7～12 節）
- (4) 御子の勝利（13～14 節）

3. 結論：

- (1) 守護天使
- (2) 神と人との間の仲介者

御子は御使いに勝るお方であることを学ぶ。

I. 御子というタイトル（4～5 節）

1. 4 節

Heb 1:4 御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使よりもまさるものとなりました。

- (1) 「御子」というタイトルは、すぐれた御名である。

①それは、キリストにのみ適用される御名である。

(2) 旧約聖書では、御使いたちは「神の子たち」と呼ばれた。

Job 38:7 そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、／神の子たちはみな喜び叫んだ。

①新約聖書では、信者が「神の子たち」と呼ばれる（ヨハ 11：52）。

②しかし、「御子」（ヒュイオス）（Son）と単数形で呼ばれるのはキリストだけ。

(3) 「御子」というタイトルは、キリストが御使い以上であることを示している。

①著者は、特にダビデ契約との関係で、ダビデの王座に着く者を「御子」と呼ぶ。

②このことは、次の 5 節に出てくる 2 つの質問によって明らかになる。

2. 5 節

Heb 1:5 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。／「あなたは、わたしの子。／きょう、わたしがあなたを生んだ。」／またさらに、／「わたしは彼の父となり、／彼はわたしの子となる。」

(1) 「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ」

①これは、詩 2：7 の引用である。

②詩 2 篇は、王の即位を読んだ詩である。

③神は、ダビデの王座に着く王を、ご自身の子として養子に迎えた。

④「きょう」とは、御子が神の右の座に着かれた時を表わしている（3 節）。

(2) 「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」

①これは、2 サム 7：14 か 1 歴 17：13 の引用である。

2Sa 7:14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。

1Ch 17:13 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。わたしはわたしの恵みをあなたの先にいた者から取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。

②この聖句は、ダビデ契約の内容である。

*2 サム 7：14 は、ソロモンに焦点を合わせている。

*1 歴 17：13 は、メシアに焦点を合わせている。

③もちろんキリストは、永遠の昔から神の子である。

④ここでの著者の関心事は、ダビデの子として王座に着く者が「御子」と呼ばれるということ。

⑤ダビデの王座に着く者は、神-人である。

⑥「御子」は、父なる神から地上の統治権を委ねられる。

⑦神は、御使いに向かつては、「あなたは、わたしの子」とは言われなかった。

II. 御子の礼拝（6 節）

Heb 1:6 さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、こう言われました。／「神の御使いはみな、彼を拝め。」

1. 6 節

(1) この聖句は、申 32 : 43 の引用である。

①ヘブル語聖書の写本（マソラ本文、6～10C）には、この部分が欠落している。

②七十人訳聖書（ギリシア語訳、前 3～2C）には、この部分が入っている。

「Rejoice, ye heavens, with him, and let all the angles of God worship him;」

③死海写本の申命記の写本（ヘブル語）には、この部分が入っている。

(2) 御子は「長子」である。

①長子は、2 倍の財産を受ける。

②詩 89 : 26～27 では、「長子」は、ダビデの家系に属する王のタイトルである。

③ダビデの子孫のモチーフが続いている。

(3) 訳文の比較

①「さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、」（新改訳）

②「更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、」（新共同訳）

③「さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って、」（口語訳）

④「また初子を再び世に入れ給ふとき」（文語訳）

⑤「And when he again bringeth in the firstborn into the world」（ASV）

(4) 御使いが「長子」を礼拝するタイミングは、再臨の時である。

①御子が御使いに勝っているのは、当然のことである。

III. 御子の不変性（7～12 節）

1. 7 節

Heb 1:7 また御使いについては、／「神は、御使いたちを風とし、／仕える者たちを炎とされる。」／と言われましたが、

(1) この聖句は、詩 104 : 4 の引用である。

Psa 104:4 風をご自分の使いとし、／焼き尽くす火をご自分の召使いとされます。

- ①本来の意味は、神は風や炎をご自分の使者として用いるということである。
- ②紀元 1 世紀のユダヤ人たちは、それとは異なる解釈をしていた。
 - *御使いたちは、風や炎と合体して、神に仕える。

(2) 著者は、当時のユダヤ人たちの解釈を採用して、議論を展開している。

- ①御使いたちは、その姿を変える。
- ②しかし、御子の姿と権威は、不変である。

2. 8～9 節

Heb 1:8 御子については、こう言われます。／「神よ。あなたの御座は世々限りなく、／あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。

Heb 1:9 あなたは義を愛し、不正を憎まれます。／それゆえ、神よ。あなたの神は、／あふれるばかりの喜びの油を、／あなたとともに立つ者にまして、／あなたに注ぎなさいました。」

(1) この聖句は、詩 45 : 6～7 の引用である（新共同訳では、詩 45 : 7～8）。

- ①御使いに関連した引用よりも、はるかに長い引用である。
- ②この箇所は、御子の復活・昇天・着座が、背景になっている。

(2) 御子は、義の杖をもって永遠に統治される。

- ①御子には喜びが与えられている。
- ②その理由は、御子が「義を愛し、悪を憎んだ」からである。
- ③読者もまた、同じ方法で喜びを獲得するのだという奨励が示唆されている。

3. 10～12 節

Heb 1:10 またこう言われます。／「主よ。あなたは、初めに／地の基を据えられました。／天も、あなたの御手のわざです。

Heb 1:11 これらのものは滅びます。／しかし、あなたはいつまでもながらえられます。／すべてのものは着物のように古びます。

Heb 1:12 あなたはこれらを、外套のように巻かれます。／これらを、着物のように取り替えられます。／しかし、あなたは変わることがなく、／あなたの年は尽きることがありません。」

(1) この聖句は、詩 102 : 25～27 の引用である。

- ①この手紙の著者は、この聖句の内容は御子に関するものだと理解した。

(2) 御子は、天地の創造主である。

- ①被造世界は、いつか着物のように古びてしまう。

- ②しかし、御子は永遠に変わることがない。
- ③また、御子の支配も永遠に続く。
- ④それゆえ、御子に仕えることを第一にすべきである。

IV. 御子の勝利（13～14 節）

1. 13～14 節

Heb 1:13 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。／「わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするまでは、／わたしの右の座に着いていなさい。」

Heb 1:14 御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたのではありませんか。

- (1) この聖句は、詩 110 : 1 からの引用である。
 - ①この引用は、御子と天使の比較のクライマックスに当たる部分である。
 - ②御子の最終的な勝利が約束されている。
 - ③その勝利は、御使いたちには約束されていない。
- (2) 御使いはみな、仕える霊である。
 - ①その役割は、救いの相続者となる人々に仕えることである。
 - ②ここでの「救い」とは、過去の新生体験のことではない。
 - ③これは、将来実現するものである。
- (3) 旧約聖書（特に詩篇）における「救い」について
 - ①敵の抑圧から解放され、神の祝福を体験すること
 - ②この手紙の読者たちは、抑圧を経験していた。
 - ③その彼らを救うのは、御子である。
 - ④御使いたちは、信者たちが御子の勝利に与ることができように、今仕えている。
 - ⑤それゆえ、諦めてはならない。

結論：

1. 守護天使

- (1) ヘブ 1 : 14 は、守護天使の存在を示唆している。

Heb 1:14 御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたのではありませんか。

- ①守護天使は、信者のために仕えている。
- ②仕える（レイトウルギコス）は、霊的奉仕を指す。

③悪いことが起こらないという意味ではない。神の御心の外では何も起こらない。

(2) その他の聖句

①マタ 18 : 10

Mat 18:10 あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

②詩 91 : 11

Psa 91:11 まことに主は、／あなたのために、御使いたちに命じて、／すべての道で、あなたを守るようにされる。

③1 コリ 4 : 9

1Co 4:9 私は、こう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、行列のしんがりとして引き出されました。こうして私たちは、御使いにも人々にも、この世の見せ物になったのです。

④ルカ 16 : 22

Luk 16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

2. 神と人との間の仲介者

(1) 初代教会の時代に暗躍した偽教師たちの教え

①彼らは、天使たちの役割を強調した。

②彼らは、天使たちを通してのみ、神に近づけると教えた。

③神を直接礼拝する代わりに、天使たちを敬うように教えた。

④コロ 2 : 18 は、それに対する警告である。

Col 2:18 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、

Col 2:19 かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。

(2) 私たちへの教訓

①イエス・キリスト以外に、神と私たちの間に立つ仲介者がいてはならない。

②それがマリアであっても、聖人たちであっても、受け入れてはならない。

*カトリック教会の正式な立場：マリアや聖人たちに対する祈りではない。

*現実に起こっていること：マリアや聖人たちに祈っている。

③地上の人たちに執りなしの祈りを要請することは良いことである。

＊天にいる人たちに祈りを要請することは聖書的ではない。

④聞かれる祈りとは、御心に叶った祈りである。

⑤イエス・キリストだけが神と人の間に立つ仲介者である。

⑥天使たちは、神の目的を達成するために信者に仕えている霊的存在である。

「御使いに勝る御子（2）」

ヘブル 2：1～9

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

＊教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

(2) 御使いのテーマが最初に取り上げられていることには、理由がある。

①紀元1世紀のユダヤ人たちは、御使いたちを過度に崇めていた。

②この手紙の著者は、御子が御使いに勝るお方であることを証明しようとする。

③証明の方法は、ヘブル語聖書（旧約聖書）からの引用である。

④「御使いに勝る御子」というテーマは、ヘブ1：4～2：18で論じられている。

2. アウトライン

(1) 第1の警告（1～4節）

(2) 人性を持った御子（5～9節）

3. 結論：御子の至高性を証明するための「起承転結」

御子は御使いに勝るお方であることを学ぶ。

I. 第1の警告（1～4節）

1. 1節

Heb 2:1 **ですから、私たちは聞いたことを、ますますしっかり心に留めて、押し流されないようにしなければなりません。**

(1) ここから、5回出てくる警告（挿入句）の最初のものが始まる。

①2：1～4、3～4章、5：11～6：20、10：19～39、12章

②この警告は最も短いものであるが、それでも厳粛な内容である。

(2) 「ですから」

①「こういうわけだから」（口語訳）

②「この故に」（文語訳）

③ヘブ 1：4～14 で確認された真理の適用に入る。それが警告の内容である。

＊御子は神性を持ったお方である。

＊それゆえ、御子は御使いたちに勝るお方である。

＊御子には、敵に対する最終的な勝利が約束されている。

＊これらの真理が、旧約聖書の聖句を引用することによって証明された。

(3) 聞いた真理を、さらに深く心に留めるべきである。

①そうでないなら、押し流されてしまう。

②「パラルエオウ」という動詞

＊指輪が指から抜け落ちる。

＊ロープが外れて、船が漂流する。

③箴 3：21

Pro 3:21 わが子よ。すぐれた知性と思慮とをよく見張り、／これらを見失うな。

＊七十人訳聖書では、同じ動詞「パラルエオウ」が使われている。

④読者は、霊的幼子たちである。

⑤真理から目がそれるなら、すぐに信仰の後退を経験する段階にある。

2. 2～3 節 a

Heb 2:2 もし、御使いたちを通して語られたみことばでさえ、堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたとすれば、

Heb 2:3a 私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができますしょう。

(1) モーセの律法に対する違反

①ガラテヤ 3：19

Gal 3:19 では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。

＊御使いたちとモーセが、旧約の律法の仲介者となった。

②旧約時代においては、モーセの律法に違反したなら、罰を受けた。

＊ここでの「もし」は、事実を紹介する言葉である。

③肉体的死を罰として受けた人たち

＊レビ記 10 章：アロンの息子のナダブとアビフ

＊民数記 16 章：コラ、ドタン、アビラム

＊ヨシュア記 7 章：アカン

(2) 福音に対して無関心なのは、さらに問題である。

①福音は、御子を通して与えられので、モーセの律法よりも素晴らしい。

②その福音に無関心であるなら、悲惨な結果を招く。

③「救い」とは、1:13~14 で学んだように、過去の新生体験ではない。

＊敵の抑圧から解放され、神の祝福を体験することである。

＊御子の最終的な勝利に与ることである。

④この救いをないがしろにした場合の罰の内容は、具体的に説明されていない。

＊「どうしてのがれることができますよう」とある。

＊救いを失うとか、地獄に行く、とか言う意味ではない。

＊神の矯正的訓練を受けるということであろう。

3. 3b~4 節

Heb 2:3b この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、

Heb 2:4 そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。

(1) 主イエスご自身が、地上生涯において、将来の御国についてたびたび言及された。

①聖徒たちは、御子とともに御国において統治するようになる。

②ルカ 22:29~30

Luk 22:29 わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。

Luk 22:30 それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

(2) それを最初に聞いた人たちは、忠実にその内容を「私たち」に伝えてくれた。

①彼らは、使徒たちである。この手紙の著者は、自分を除外している。

②彼らは、超自然的な力によってそれを行なった。

(3) 超自然的な力は、神が与える保証である。

①「しるしと不思議とさまざまな力あるわざ」

＊使徒たちとその同労者たちだけが、その力を発揮した。

②「聖霊が分け与えてくださる賜物」

＊誰にどのような聖霊の賜物を与えるかは、聖霊ご自身が判断される。

③著者は、超自然的な力を、「後の世」(5 節) の力と解釈している。

＊それはまた、神の権威を示す力でもある。

II. 人性を持った御子（5～9 節）

1. 5 節

Heb 2:5 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさなかったのです。

(1) ここから、本論に戻る。

①著者のテーマは、「後の世」（メシア的王国）である。

* 「the world to come」は、メシア的王国を指す最も一般的なラビ用語。

②「後の世」（メシア的王国）のテーマが、1 章から続いている。

③ヘブル人への手紙が語る「救い」とは、極めて終末論的なものである。

(2) エッセネ派の天使論の否定

①彼らは、天使ミカエルとその天使集団が将来の御国を統治すると信じていた。

②この手紙の著者は、その教えを真っ向から否定している。

③御子とともに、私たちが御国を統治するのである。

2. 6～8 節 a

Heb 2:6 むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししています。／「人間が何者だというので、／これをみこころに留められるのでしょう。／人の子が何者だというので、／これを顧みられるでしょう。

Heb 2:7 あなたは、彼を、／御使いよりも、しばらくの間、低いものとし、／彼に栄光と誉れの冠を与え、

Heb 2:8a 万物をその足の下に従わせられました。」

(1) 詩 8 : 4～6 が引用されている。

①詩 8 篇は、被造世界における人間の役割を歌ったものである。

②著者は、これをメシア的、かつ、終末的に解釈している。

(2) 詩 8 篇のメシア論的解釈

①「人の子」

* イエスご自身が採用されたメシア称号である。

②「御使いよりも、しばらくの間、低いものとし」

* 受肉から十字架の死までの間は、イエスにとって「辱めの期間」である。

③「彼に栄光と誉れの冠を与え、万物をその足の下に従わせられました」

* 復活、昇天、神の右の座へ着座を指している。

3. 8節b～9節

Heb 2:8b /万物を彼に従わせたとき、神は、彼に従わないものを何一つ残されなかったのです。それなのに、今でもなお、私たちはすべてのものが人間に従わせられているのを見てはいません。

Heb 2:9 ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見ています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

(1) 御子による完全な世界統治を、私たちはまだ見ていない。

- ①御子が万物を支配しているという事実は、すでに成就している。
- ②ただし、人の目にはまだそれが見えていない。

(2) 私たちが見ているのは、受肉したイエスである。

①「御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエス」

*これは、御子の受肉を指す。

②「イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました」

*これは、受難の後の御子の高揚を指す。

③「その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです」

*御子の死は、罪人を救うための贖罪死である。

結論：御子の至高性を証明するための「起承転結」

1. 起：アダムに世界を統治する権威が与えられた。

Gen 1:26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」

Gen 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

(1) 人は、地上における神の代理人として創造された。

2. 承：アダムは、墮落によってその権威を失った。

- (1) 権利証は依然としてアダムが所有しているが、その権威は実行されていない。
- (2) サタンがその権威を略奪した。
- (3) この世の支配者は、サタンである。

3. 転：メシアは、サタンからその権威を奪い返した。

- (1) メシアは、理想的な神の代理人となるために受肉された。
- (2) メシアは、十字架の死によってサタンに勝利された。

4. 結：メシアは、メシア的王国においてこの権威を完璧に行使される。

- (1) この約束は、天使に与えられたものではない。
- (2) これは、御子にのみ与えられている約束である。
- (3) それゆえ、御子は御使いたちよりも勝っている。
- (4) 私たちも、御子とともに統治するようになる。

「御使いに勝る御子（3）」

ヘブル 2：10～18

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

*教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

(2) 御使いのテーマが最初に取り上げられていることには、理由がある。

①紀元1世紀のユダヤ人たちは、御使いたちを過度に崇めていた。

②著者は、御子が御使いに勝るお方であることを証明しようとする。

③「御使いに勝る御子」というテーマは、ヘブ1：4～2：18で論じられている。

(3) 「御使いに勝る御子」を論証する3つのステップ

①御子の神性（すぐれた御名）（1：4～14）

②御子の人性（万物の支配者）（2：5～9）

③御子がもたらした救い（2：10～18）

*御子は人間を救う。御子の方が人間よりも上である。

*御子は天使を救わない。人間の方が天使よりも上である。

*それゆえ、御子は天使よりも上である。

2. アウトライン：御子の受肉の目的

(1) 多くの神の子たちを栄光に導くため（10～13 節）

(2) 死の力を持つ者を滅ぼすため（14～15 節）

(3) 人間を救うため（16～18）

3. 結論：

(1) 「父なる神にふさわしいこと」とは、何か。

(2) 「御子が救いの創始者として全うされた」とは、どういう意味か。

御子は御使いに勝るお方であることを学ぶ。

I. 多くの神の子たちを栄光に導くため（10～13 節）

1. 10 節

Heb 2:10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであつたのです。

(1) リビングバイブル

Heb 2:10 栄光を現わすために、すべてのものをお造りになった神様が、ご自分を信じる者たちを天まで引き上げるため、イエス様を苦しみにお寄せしたのは、まことに正しいことでした。この苦しみをくぐり抜けて、イエス様は人々を救いに導くにふさわしい、完全な指導者となられたのです。

(2) 主語は、「父なる神」である。

- ①「万物の存在の目的である方」（新改訳）、「万物の帰すべきかた」（口語訳）
- ②「万物の原因でもある方」（新改訳）、「万物を造られたかた」（口語訳）

(3) 父なる神は、多くの神の子たちを栄光に導こうとされた。

- ①神の子たちとは、信仰によって救われる聖徒たちである。
- ②「栄光」とは、被造世界を統治するという栄光である（2:5～9 で論じられた）。
- ③著者は、依然として詩 8 篇に基づいて論じている。

(4) 神の子たちを栄光に導く方法は、御子を苦難に会わせることであつた。

「彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、」（新改訳）

「彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、」（新共同訳）

「彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、」（口語訳）

- ①「創始者」と訳されている言葉は、「アルケイゴス」である。

＊リーダー、創始者、設立者

＊英語の「パイオニア」、「道を切り拓く人」

- ②御子は、数々の苦しみを通して、完全な「指導者」、「パイオニア」となられた。

③ヘブ 2:9

「イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました」

＊御子を信じる者たちは、同じ道を行くことになる。

(5) 御子が数々の苦しみを通過することは、父なる神に「ふさわしい」ことであつた。

- ①御子の受難は、父なる神の御心であつた。

2. 11～12 節

Heb 2:11 聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。

Heb 2:12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。／教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」

(1) 清める方も、清められる者たちも、皆ひとりの方から出ている。

- ①「ひとりの方」とは、父なる神である。
- ②人間性を持った御子と人間は、ともに父なる神から出ている。
- ③永遠の神である御子が、そこまで人間と一体化されることはあり得るのか。
- ④次の詩 22 : 22 がその回答になっている。

(2) 詩 22 : 22 の預言

Psa 22:22 わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、会衆の中であなたをほめたたえるでしょう。

①詩 22 篇は、「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか」で有名なメシアの受難（義人の苦難）の詩篇である。

＊御子は、受難の中から神に呼びかけた。

＊神は、その祈りを聞かれた。

＊そこで御子は、会衆の中で神の御名をたたえている。

②御子は、聖徒たちを「兄弟たち」と呼ぶ。

③御子は、公の集会で御名を賛美し、神に信頼することを兄弟たちに教えている。

3. 13 節

Heb 2:13 またさらに、／「わたしは彼に信頼する。」／またさらに、／「見よ、わたしと、神がわたしに賜った子たちは。」／と言われます。

(1) 御子の受肉の事実が、さらに 2 つの聖句によって証明される。

①イザ 8 : 17

Isa 8:17 私は【主】を待つ。／ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。／私はこの方に、望みをかける。

＊【主】に信頼することは、真の人間性の証明である。

②イザ 8 : 18

Isa 8:18 見よ。私と、【主】が私に下さった子たちとは、／シオンの山に住む万軍の【主】からの／イスラエルでのしるしとなり、／不思議となっている。

＊御子にとっては、信者は「【主】が私に下さった子たち」である。

II. 死の力を持つ者を滅ぼすため（14～15 節）

1. 14～15 節

Heb 2:14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、

Heb 2:15 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。

(1) 子たち（【主】が私に下さった子たち）を救うために、御子は受肉された。

①御子は、人間を救うために、人間となって死ななければならなかった。

②御子は、新しいアダムとなられた。

(2) 御子は、死ぬことによって、悪魔を滅ぼされた。

①悪魔は、死の力を持つ者である。

②人間は、一生涯、死の恐怖につながれて奴隷となっていた。

③御子は、人間を奴隷状態から解放して下さった。

④悪魔が消滅したわけではない。

⑤悪魔は、御子によって贖われた人々の上に支配権を行使できなくなった。

*悪魔が人間を束縛する方法は、死の恐怖である。

*死の恐怖から解放されたなら、自由の子として生きることができる。

III. 人間を救うため（16～18）

1. 16 節

Heb 2:16 主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。

(1) 訳文の比較

「主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです」（新改訳）

「私たちはみな、イエス様が、御使いとしてではなく、一人の人間、一人のユダヤ人として来られたことを知っています」（リビングバイブル）

「For verily he took not on him the nature of angels; but he took on him the seed of Abraham.」(KJV)

(2) 御子は、天使の姿を取って来られたのではない。

①墮天使たちを救う計画はないからである。

(3) 御子は、人間の姿を取って来られた。

①罪の性質を持たない人間の姿である。

②「アブラハムの子孫」とは、ユダヤ人として来られたことを示している。

＊アブラハムに約束された「子孫」（種）（創 22：18）

Gen 22:18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

＊アダムに約束された「女の子孫」（創 3：15）

③第一義的には、「アブラハムの子孫」であるユダヤ人たちを救うために来られた。

＊この手紙は、メシアニック・ジューに宛てたものである。

④しかし、異邦人もこの救いの対象と考えてよい。

＊ガラ 3：29

Gal 3:29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

2. 17 節

Heb 2:17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。

(1) ここで初めて、御子の大祭司としての働きが紹介される。

①御子は、すべての点で人間と同じようにならなければならなかった。

②あわれみ深い、忠実な大祭司となるため。

③大祭司の働きは、罪のためのなだめの捧げ物を捧げることが含まれている。

3. 18 節

Heb 2:18 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。

(1) 御子の大祭司としての働きは、この手紙の後半で詳細に取り上げられる。

①「御使いに勝る御子」というテーマの結論部で、御子の大祭司職が取り上げられている。

②御子自身が苦しまれたので、試みの中にいる者たちを助けることができる。

結論：

1. 「父なる神にふさわしいこと」とは、何か。

Heb 2:10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通し

て全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであつたのです。

- (1) 神に信頼できない人が現実におられる。
- (2) 神をどのように評価しようとも、それは、人間による神の評価である。
- (3) 神は、ご自身の計画と心を啓示された。

①御子を苦難に会わせるのは、父なる神の御心であつた。

Isa 53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、／私たちの痛みをになった。／だが、私たちは思った。／彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。

Isa 53:10 しかし、彼を砕いて、痛めることは／【主】のみこころであつた。／もし彼が、自分のいのちを／罪過のためのいけにえとするなら、／彼は末長く、子孫を見ることができ、／【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。

②父なる神は、懇願しておられる。

2Co 5:19 すなわち、神は、キリストにあつて、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のこつばを私たちにゆだねられたのです。

2Co 5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わつて、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

2. 「御子が救いの創始者として全うされた」とは、どういう意味か。

- (1) 苦難を通過することによって、御子は信仰のパイオニアとしての資格を得た。

①人間が、創造の目的に至ることができるように、道を拓いた。

②御子は今、父なる神の臨在の中にいる。

③神の子たちも、その道を通つて、栄光に至る。

- (2) 御子が大祭司となるために必要な3つの条件

①自分が代表している民と一体化している。思いやることができる。

*そのために、御子は受肉された。

②父なる神に従順である。

*御子は、受難を通して、全き従順を証明された。

*もし従順でないから、御子自身が大祭司の助けを必要とするようになる。

③罪の贖いのいけにえを捧げる。

*罪のないご自身の命を捧げられた。

- (3) クリスマスは、日々御子の助けを受けながら歩むことができる。

「モーセに勝るイエス」

ヘブル 3 : 1～6

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

＊教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

(2) 前回までの箇所では、著者は、御子が御使いに勝る方をであることを論証した。

①この箇所では、イエスがモーセに勝る方がことが論証される。

②モーセは、ユダヤ人にとっては国民的なヒーローである。

③イエスがモーセに勝る方をことを論証すれば、以下のことが証明される。

＊キリストを信じる信仰は、ユダヤ教に勝る。

＊キリストが提供するものは、モーセが提供するものに勝る。

＊つまり、新約は旧約に勝る。

④それゆえ、キリストを離れてモーセに回帰することは、不条理である。

2. アウトライン

(1) 使徒であり大祭司であるイエス（1～2 節）。

(2) モーセに勝るイエス（3～6 節）

結論：

(1) 旧約聖書から学ぶこと

(2) モーセとイエスの対比

イエスはモーセに勝るお方であることを学ぶ。

I. 使徒であり大祭司であるイエス（1～2 節）。

1. 1 節

Heb 3:1 そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。

(1) 「そういうわけですから」

①今まで論じてきた内容（御子は御使いに勝る）を前提に、次のテーマに移る。

②天使ではなく、御子に目を向けよという勧告が与えられる。

- ③御使い以外に、ユダヤ人たちの関心を奪っていたテーマがもうひとつある。
- ④それが、モーセである。

(2) 「天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち」

- ①この呼びかけの言葉は、今まで論じてきた内容の要約となっている。
- ②手紙の受け手は、「兄弟たち」である。
 - *互いに兄弟であるだけでなく、信仰のパイオニアである方とも兄弟である。
 - *ヘブ 2:11~12

Heb 2:11 聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。

Heb 2:12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。／教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」

- ③彼らは、「聖なる兄弟たち」である。
 - *キリストによって聖なる者とされた。
- ④彼らは、「天の召しにあずかっている」
 - *天の召しとは、将来の御国での栄光に与ることである。
 - *「ともに与る」、「共有している」という意味である。

(3) 「私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい」

- ①彼らは、イエスについて学び、理解を深めるべきである。
- ②ここでは、イエスに2つのタイトルが与えられている。
 - *使徒と大祭司
- ③彼らは、一度はイエスを信じた人々である。
 - *しかし、初歩の信仰に留まっていた。
 - *イエスについてさらに学び、理解を深める必要がある。
 - *これは、ファストフード、ファストファッションの時代への警句となる。

(4) イエスは、「使徒」である。

- ①「使徒」というタイトルは、12使徒とは異なる意味で使用されている。
- ②イエスは、神から派遣された者である。イエスは、神を代表している。
 - *このテーマは、3:1~4:13で論じられる。
- ③ヨハ 1:17

Joh 1:17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

*モーセは、シナイ契約と律法をもたらすための使者であった。

*イエスは、新約と恵みのディスペンセーションをもたらすための使者。

(5) イエスは、「大祭司」である。

①モーセではなく、アロンが大祭司であった。

②しかし、実際に大祭司の役割を果たしたのは、モーセであった。

*金の子牛事件 (出 32 章)

*カデシュ・バルネア事件 (民 14 章)

③イエスは、大祭司であり、民の代理人である。

*このテーマは、4:14~7:28 で論じられる。

2. 2 節

Heb 3:2 モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なのです。

(1) モーセは、神に忠実な最高の例である。

①民 12:6~7

Num 12:6 仰せられた。「わたしのことばを聞け。もし、あなたがたのひとりが預言者であるなら、【主】であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。

Num 12:7 しかしわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者である。

②モーセは、「神の家全体のために」忠実であった。

*「神の家」とは、単に幕屋のことではない。

*「イスラエルの家」、つまり、「イスラエルの民」のことである。

(2) しかし、イエスの方がモーセよりも神に対して忠実である。

①モーセは、失敗を犯すことがあったが、イエスにはそれがない。

②申 18:15

Deu 18:15 あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。

*イエスは、「モーセのようなひとりの預言者」である。

II. モーセに勝るイエス (3~6 節)

1. 3~4 節

Heb 3:3 家よりも、家を建てる者が大きな榮譽を持つのと同様に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。

Heb 3:4 家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。

(1) ユダヤの伝承の 2 つの流れ

- ①モーセは、歴史上最も偉大な人物である。
- ②あるいは、モーセは、アブラハムに次いで偉大な人物である。

(2) イエスがモーセよりも優れていることの論証①

- ①イエスは、イスラエルの家を建てた。
- ②モーセは、イスラエルの家の中にいて、神に忠実に仕えた。
- ③家を建てる者は、家よりも大きな栄誉を持つ。

(2) イエスがモーセよりも優れていることの論証②

- ①家は、誰かによって建てられる。
- ②神は、すべてのものを造られた。
- ③イエスは、創造の業に参加しておられた。

Joh 1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

Heb 1:2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

- ④つまり、イエスは神である。

2. 5 節

Heb 3:5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。

(1) モーセは、神の家全体のために忠実であった。

- ①しかし、神の家における彼の地位は、しもべであった。
- ②「しもべ」(デューロスではなく、セラポン)
 - *相手の身分や状態に関係なく、忠実に仕える人
 - *医者が病人を治療するように、隣人の必要に仕える人
- ③モーセは、イスラエルの霊的、道徳的病を癒した。

(2) モーセの奉仕は、イエスの奉仕の予表であり、影であった。

- ①「後に語られる事」とは、メシアに関することである。

3. 6 節

Heb 3:6 しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、

確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。

(1) モーセとキリストの対比

- ①モーセは、神の家の中でのしもべであった。
- ②キリストは「御子」として、「神の家」の上にあつて、それを治められる。
- ③今は、ユダヤ人信者と異邦人信者は、ともに神の家に属している。
- ④エペ 2 : 19

Eph 2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

(2) 「確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、」

- ①忍耐ある信仰は、その人が真に救われていることの証拠である。
- ②忍耐のない人は、救いに至る信仰があるという証拠がない。

結論：

1. 旧約聖書から学ぶこと

Heb 3:5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。

- (1) 神の計画が成就するために、人がどのように用いられたか。
- (2) 霊的真理を教えるために、事件や人物が象徴としてどのように用いられたか。
- (3) メシアの来臨を予告するために、預言者たちがどのように用いられたか。
- (4) メシアの死の意味を教えるために、祭儀法がどのように用いたれたか。
- (5) 旧約聖書の理解なしに、新約聖書を理解することは不可能である。

2. モーセとイエスの対比

- (1) モーセは、奴隷になっていたイスラエルの民をエジプトから解放した。
 - ①イエスは、信じる者を罪の束縛と呪いから解放される。
- (2) モーセを通して、神はイスラエルの民を「神の民」として造られた。
 - ②イエスは、信じるすべての者を「神の子」として造られる。
- (3) モーセは、イスラエルの民に旧約をもたらした。
 - ③イエスは、すべての者に新約をもたらした。
- (4) モーセの時代（旧約時代）、イスラエルの民だけが神に近づくことができた。
 - ④イエスの時代（新約時代）、信じるすべての者が神に近づくことができる。
- (5) すべての点において、イエスはモーセよりも素晴らしいことを行なわれた。

「第2の警告（1）」

ヘブル3：7～19

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

*教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

*この箇所は、2回目の警告である（第1の警告は、2：1～4）。

(2) 前回は、イエスがモーセに勝る方であることが論証された。

①キリストを拒むことは、モーセを拒むこと以上に罪深い行為である。

②そのことが詩95篇を引用することで、論証されていく。

2. アウトライン

(1) 詩95篇からの教訓（7～11節）

(2) 教訓の適用（12～15節）

(3) 警告の言葉（16～19節）

結論：

(1) 新しい出エジプト

(2) 「きょう」という言葉の意味

第2の警告の内容について学ぶ。

I. 詩95篇からの教訓（7～11節）

1. 7節a

Heb 3:7a ですから、聖霊が言われるとおりです。

(1) 旧約聖書には、キリストの型が多く隠されている。

①この手紙の著者は、そのことをよく知っていた。

②この手紙の読者たちも、そのことを知っていたと思われる。

③新約聖書には、旧約聖書の事例を引用した勧告の言葉が多く出てくる。

(2) ここでは、詩95：7b～11が引用されている。

①前半（詩95：1～7a）は、神を礼拝せよという招きの言葉

- ②後半（詩95：7b～11）は、神への反抗に対する警告の言葉
- ③前半と後半を切り離してはならない。
- ④神への礼拝は、表面的な行為ではなく、心から出たものでなければならない。

(3) 詩95篇は、ダビデの作である。

①ヘブ4：7

Heb 4:7 神は再びある日を「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、／「きょう、もし御声を聞くならば、／あなたがたの心をかたくなにしているのではない。」／と語られたのです。

②聖霊が、ダビデを通してイスラエルの民に語られた。

＊預言と聖霊を関連づけることは、当時のラビたちの一般的な認識であった。

- ③ダビデは、イスラエルの歴史上起こった出来事を基に、適用を語っている。
- ④この手紙の著者は、ダビデが詩95篇で語った適用を、同時代のメシアニック・ジューたちに語っている。

(4) 詩95篇の重要性

- ①ユダヤ人たちは、神殿における安息日礼拝で、この詩を朗詠していた。
- ②現代のユダヤ教徒は、安息日の始まりにこれを朗詠する。
- ③聖公会の祈祷書では、朝の祈りの冒頭にこの詩篇が出てくる。

2. 7節b～9節

Heb 3:7b 「きょう、もし御声を聞くならば、

Heb 3:8 荒野での試みの日に／御怒りを引き起こしたときのように、／心をかたくなにしているのではない。

Heb 3:9 あなたがたの父祖たちは、／そこでわたしを試みて証拠を求め、／四十年の間、わたしのわざを見た。

(1) 詩95：7b～9

Psa 95:7b きょう、もし御声を聞くなら、

Psa 95:8 メリバでのときのように、／荒野のマサでの日のように、／あなたがたの心をかたくなにしているのではない。

Psa 95:9 ああとき、あなたがたの先祖たちは／すでにわたしのわざを見ておりながら、／わたしを試み、わたしをためした。

- ①「メリバ」＝「パラピクラスモス」（ギリシア語）＝「御怒りを引き起こした」
- ②「マサ」＝「ペイラスモス」（ギリシア語）＝「試み」

(2) 荒野におけるイスラエルの民の反抗

①出 17：1～7

＊レフィディムの近くで、民は水を求めてモーセと争った。

②民 20：1～13

＊カデシュ・バルネア付近で、民は水を求めてモーセと争った。

＊モーセは衝動的に岩を打ったために、約束の地に入れなくなった。

＊詩篇は、この 2 つの事件を 3 度も取り上げている（81、95、106 篇）。

③民 14：20 以下

＊カデシュ・バルネアでの出来事（数々の反抗の中で最も悪質なものの）

＊12 人のスパイの内 10 人までが否定的な報告をもたらした。

＊民はモーセとアロンを退け、新しいリーダーを選ぼうとした。

＊モーセの執りなしの祈りにより、民はただちに滅ぼされることを免れた。

＊出エジプトの世代は、40 年間放浪し、約束の地には入れなかった。

3. 10～11 節

Heb 3:10 だから、わたしはその時代を憤って言った。／彼らは常に心が迷い、／わたしの道を悟らなかった。

Heb 3:11 わたしは、怒りをもって誓ったように、／決して彼らをわたしの安息に入らせない。」

(1) その時代のイスラエルの民は、安息（約束の地）に入れなかった。

①この手紙の読者たちは、先祖たちの失敗から教訓を学ぶべきである。

(2) 「四十年の間」

①著者は、「40 年の間」という言葉の適用を明確には語っていない。

②しかし、著者の心を推察することはできる。

③イエス・キリストが霊的出エジプトを与えてから、40 年になろうとしている。

＊この手紙は、紀元 70 年の前に書かれている。

＊読者は、神の忍耐の期間(40 年)が間もなく満ちることを知るべきである。

II. 教訓の適用（12～15 節）

1. 12～13 節

Heb 3:12 兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。

Heb 3:13 「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて

かたくなにならないようにしなさい。

(1) 「兄弟たち」

- ①信仰から離れていく者たちへの愛が表現されている。
- ②信者への呼びかけである。

(2) 「生ける神から離れる者がないように気をつけなさい」

- ①「生ける神」とは、キリストのことである。
- ②モーセに反抗した者が約束の地に入れなかったとするなら、イエスに反抗する者に希望はない。
- ③「悪い不信仰の心」を持つ者が、約束の地から排除された。
- ④読者の中に、そういう者が出ないようにという勧めが語られる。

(3) 「『きょう』と言われている間に」

- ①「きょう」とは、神の忍耐がまだ続いている「今この時」のことである。
- ②読者にとっては、終末時代（恵みの時代）における「今この時」である。
- ③信者は、互いに励まし合い、信仰の成長を求めるべきである。

2. 14～15 節

Heb 3:14 もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。

Heb 3:15 「きょう、もし御声を聞くならば、／御怒りを引き起こしたときのように、／心をかたくなにしてはならない。」／と言われているからです。

(1) 信仰の忍耐が勧められる。

- ①「最初の確信」とは、単なる主観的確信ではない。
- ②彼らの信仰は、神のみことばと、成就したキリストの御業を土台としている。

(2) 「キリストにあずかる者」

- ①将来の御国（千年王国）を相続する者となる。
- ②キリストとともに、御国を治めることになる。

(3) 詩 95：7b～8 が、再び引用される。

- ①信仰の忍耐を持つようにと、念を押している。

Ⅲ. 警告の言葉（16～19 節）

1. 16～18 節

Heb 3:16 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。

Heb 3:17 神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。

Heb 3:18 また、わたしの安息に入らせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなかった人たちのことではありませんか。

(1) 引用した聖句の解釈

- ①御怒りを引き起こしたのは、モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部。
- ②彼らは、モーセを通して語られる神の声を聞いた。
- ③彼らは、神が行なわれる大いなる奇跡を目撃した。
- ④それでも彼らは、心を頑なにした。
- ⑤彼らは、モーセを試みただけでなく、神をも試みたのである。
- ⑥出エジプトの世代のイスラエルの民は、40年の間にすべて死んだ。

2. 19 節

Heb 3:19 それゆえ、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことがわかります。

(1) 読者への警告

- ①彼らが安息に入れなかったのは、不信仰が原因であった。
 - *ここでの安息とは、「約束の地での生活」である。
 - *この手紙が使用する「安息」の意味については、先に行ってから論じる。
- ②約束の地に入れないのは、大いなる悲劇である。
- ③キリストがもたらす安息は、約束の地以上のものである。
- ④キリストに背を向けるなら、その安息を失うことになる。

(2) 出エジプト世代の者たちは、永遠に滅びたわけではない。

- ①モーセ、アロン、ミリアムは、救われている。
- ②民 14 : 20～23

Num 14:20 【主】は仰せられた。「わたしはあなたのことばどおりに赦そう。

Num 14:21 しかしながら、わたしが生きており、【主】の栄光が全地に満ちている以上、

Num 14:22 エジプトとこの荒野で、わたしの栄光とわたしの行ったしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、みな、

Num 14:23 わたしが彼らの先祖たちに誓った地を見ることがない。わたしを侮った者も、みなそれを見ることがない。

*罪の赦しと荒野での死が、同じ約束に含まれている。

*罪は赦されたが、約束の地には入れない。

結論：

1. 新しい出エジプト

(1) 新約聖書は、キリストの贖いの御業を「新しい出エジプト」と解釈している。

①ルカ 9：31

Luk 9:31 栄光のうちに現れて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである。

*「ご最期」は「出エジプト」である。

(2) その他の聖句

①1 コリ 5：7

1Co 5:7 新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。

②1 ペテ 1：18～19

1Pe 1:18 ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、

1Pe 1:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

③1 コリ 10：1～4

1Co 10:1 そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいのです。私たちの父祖たちはみな、雲の下におり、みな海を通って行きました。

1Co 10:2 そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、

1Co 10:3 みな同じ御霊の食べ物を食べ、

1Co 10:4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。

2. 「きょう」という言葉の意味

Heb 3:15 「きょう、もし御声を聞くならば、／御怒りを引き起こしたときのように、／心をかたくなにしてはならない。」／とされているからです。

(1) 「きょう」とは、神の忍耐がまだ続いている「今この時」のことである。

①ダビデがこの詩篇を詠んだ時は、「今この時」が続いていた。

②この手紙の読者にとっては、終末時代（恵みの時代）における「今この時」である。

③現在でも、「きょう」（神の忍耐の時）が続いている。

④新しく迎える毎日は、「新しいきょう」である。

(2)「きょう」（神の忍耐の時）がいつまでも続くと思ってはならない。

「第 2 の警告（2）」

ヘブル 4：1～13

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。

③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

*教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

*この箇所は、2 回目の警告である（第 1 の警告は、2：1～4）。

(2) キリストを拒むことは、モーセを拒むこと以上に罪深い行為である。

①前回は、詩 95 篇を引用することで、そのことが論証された。

②詩 95 篇のテーマは荒野でのイスラエルの民の不信仰である。

③特に、カデシュ・バルネアでの出来事が重要である。

*12 人のスパイたちの報告を聞いて、民は不信仰に陥った。

*その結果、彼らはカナンの地に入る前に死ぬことになった。

*これは、彼らが霊的に滅びたということではない。

④この手紙の読者たちは、カデシュ・バルネアと似たような場所に立っていた。

*彼らは、12 使徒たちが伝える福音を聞いて、それを信じた。

*もし不信仰に陥り、エジプト（ユダヤ教）に回帰するなら、祝福を失う。

*これは、彼らが霊的救いを失うということではない。

2. アウトライン

(1) 神の安息を失う危険性（1～10 節）

(2) 神の安息に入れという奨励（11～13 節）

結論：

(1) 神のみことばの 5 つの特徴

第 2 の警告の内容について学ぶ。

I. 神の安息を失う危険性（1～10 節）

1. 1 節

Heb 4:1 こういうわけで、神の安息に入るための約束はまだ残っているのですから、あなた

がたのうちのひとりでも、万が一にもこれに入れないようなことのないように、私たちは恐れる心を持つてではありませんか。

(1) 「こういうわけで」

- ①ヘブ 3：17～19 で論じてきた内容を土台とした言葉である。
- ②イスラエルの民は不信仰の故にカナンの地に入れなかった。
- ③この手紙の読者たちにも、同じ危険性がある。

(2) この手紙が論じる「安息」には、3 種類のものがある。

①カナンの地での安息（過去形の救い）

＊敵との戦いが終わること

②天地創造の安息（未来形の救い）

＊活動の終止のこと

＊現在の意味：キリストの贖いが完成したことを信じ、後戻りしないこと

＊将来的意味：信者が死後に体験する安息（天において、千年王国において）

③安息日の安息（現在形の救い）

＊霊的安息のこと

＊霊的成長に伴う安息のこと

(3) 読者たちは、「神の安息」を失う可能性があった。

- ①ここでの安息は、上記③の霊的安息である。
- ②神は、霊的出エジプトを体験した信者たちに、霊的安息を用意しておられる。
- ③もし不信仰に陥るなら、その霊的安息を失う可能性がある。
- ④「恐れる心」とは、その霊的安息を失うことへの恐れである。
 - ＊出エジプトの世代がカナンの地に入れなかったことが教訓となる。

2. 2 節

Heb 4:2 福音を説き聞かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。

(1) 出エジプト世代のイスラエルの民とこの手紙の読者たちは、ともに福音（グッドニュース）を説き聞かされた。

①福音の内容は異なる。

(2) イスラエルの民にとっての福音とは

①出 19：3～6

Exo 19:3 モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。

Exo 19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとの連れて来たことを見た。

Exo 19:5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

Exo 19:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。／これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

＊神は、イスラエルの民をエジプトから解放された。

＊神は、イスラエルの民をカナンの地に導き入れる。

＊神は、イスラエルの民を「祭司の王国」、「聖なる国民」とする。

②出 23：20～33 も参照

(3) しかし、神の計画通りにはならなかった。

①福音（グッドニュース）を聞いただけでは、益にならなかった。

②神の約束を信仰によって受け取らなかったからである。

③この手紙の読者たちもまた、神の約束を信仰によって受け取る必要がある。

3. 3～5 節

Heb 4:3 信じた私たちは安息に入ります。／「わたしは、怒りをもって誓ったように、／決して彼らをわたしの安息に入らせない。」／と神が言われたとおりです。みわざは創世の初めから、もう終わっているのです。

Heb 4:4 というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた」と言われました。

Heb 4:5 そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息に入らせない」と言われたのです。

(1) 「信じた私たちは安息に入ります」

①著者と読者たちは、すでに福音を信じた（過去の事実）。

②その結果、安息にあずかることができる（新共同訳）。（現在の事実）

③この安息は、現在形であると同時に、未来形でもある（ヘブ 4：11）。

(2) 詩 95：11 が再度引用される。

①「わたしの安息」とは、神が味わっておられる安息である。

(3) この安息は、「天地創造の安息」である。

①創 2：2 の引用

②神は今も、この安息を味わっておられる。

③この安息は、神が人間に与えようとされた安息である。

④しかし、イスラエルの民は不信仰によってこの安息を放棄したのである。

4. 6～7 節

Heb 4:6 こういうわけで、その安息に入る人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従順のゆえに入れなかったのですから、

Heb 4:7 神は再びある日を「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、／「きょう、もし御声を聞くならば、／あなたがたの心をかたくなにしていはならない。」／と語られたのです。

(1) ダビデは、詩 95 篇を通して、神の安息に入る道が開かれていると語った。

①それゆえ、「きょう」という日に神に立ち返れと勧めた。

(2) この手紙の著者もまた、神の安息に入る道は依然として開かれていると書いた。

①それゆえ、出エジプト時代のイスラエルの民の失敗を繰り返すべきではない。

5. 8 節

Heb 4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであったら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。

(1) ここで語られている「神の安息」は、「カナン之地での安息」以上のものである。

①ヨシュアは新しい世代のイスラエルの民に、「カナン之地での安息」を与えた。

②しかしヨシュアは、霊的成長から来る安息を与えることができなかった。

③ダビデが詩 95 篇で語っている「神の安息」は、「カナン之地での安息」以上のものである。

6. 9～10 節

Heb 4:9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。

Heb 4:10 神の安息に入った者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。

(1) ここでの「安息」は「安息日の安息」である。

①この安息は、ギリシア語で「サバティスモス」である（新約聖書でここだけ）。

②「安息日の祝い、喜び」を意味している。

③神の臨在の喜び、理想的な喜びのことである。

(2) この「安息」は、すべての信者に約束されている。

- ①霊的成長がもたらす安息である。
- ②霊的成長とは、聖霊の導きによって生きている状態である。
- ③その人は、霊的生活の中で起こる基本的な戦いからは自由になっている。
- ④その人は、自分の努力に頼ることは止め、信仰によって歩んでいる。

Ⅱ. 神の安息に入れという奨励（11～13 節）

1. 11 節

Heb 4:11 **ですから、私たちは、この安息に入るよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。**

(1) 「ですから」

- ①4：1～10 の内容が土台になっている。
- ②「安息日の安息」に入るように努めようではないか。
 - *これは、現在形の安息である。
 - *これは、霊的成熟から来る安息である。

(2) 不従順なイスラエルの民が反面教師である。

- ①彼らは、神の約束された安息に入れなかった。
- ②彼らは、荒野で死んだ。
- ③そのように、不信仰な状態を続ければ、死を招く可能性がある。
- ④しかし、魂の救いを失うことはない。

2. 12～13 節

Heb 4:12 **神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。**

Heb 4:13 **造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。**

(1) 奨励の根拠

- ①神のことばが働いている。
- ②神のことばには、5 つの特徴がある。

(2) 信者は、いつか神の御前で申し開きをすることになる。

- ①神の前で隠れおおせるものは何一つない。
- ②「記憶にない」、「文書は廃棄した」は、神の裁きの座では通用しない。

③神に対して弁明をすることは、恐ろしいことである。

結論：神のみことばの5つの特徴

1. ヘブ4:12

Heb 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

2. 5つの特徴

(1) 生きている。

- ①生きている神から出たことばなので、神の性質を反映している。
- ②霊的に死んだ者を甦らせることができる。

(2) 力がある。

- ①ギリシア語で「エネルゲス」。
- ②活発に働いている。その結果、生きていることを証明している。
- ③コロ1:29

Col 1:29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

(3) 鋭い。

- ①鋭利な両刃の剣よりも鋭い。
- ②エペ6:17

Eph 6:17 救いのかぶとかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

(4) 刺し通す。

- ①「たましいと霊」の分かれ目を刺し通す。
 - *「たましい」と「霊」は、互換性のある言葉である。
 - *人間の内面の2つの側面を表現する言葉である。
 - *人間の内面が2分割されているという意味ではない。
- ②「関節と骨髄」の分かれ目を刺し通す。
 - *「関節」と「骨髄」は、人間の肉体の2つの側面である。

(5) 判別することができる。

- ①ギリシア語の「クリティコス」（形容詞）。英語の「critic」。
- ②「心のいろいろな考え」とは、実際に考えている内容である。
- ③「はかりごと」とは、内面の動機である。

Mat 11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

Mat 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負っ

2017 年 8 月 13 日（日）、14 日（月） 7 回 「第 2 の警告（2）」

て、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

Mat 11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

「アロンに勝る御子」

ヘブル 4 : 14～5 : 10

1. はじめに

(1) 天皇の生前退位に関する議論（2016 年 11 月のヒアリング）

(2) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。
- ③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

(2) ユダヤ教の 3 つの柱は、天使、モーセ、レビ的祭司である。

- ①御子は、天使に勝るお方であることが証明された。
- ②御子は、モーセに勝るお方であることも証明された。
- ③この箇所は、御子はアロンに勝るお方であることが証明される。

＊このテーマが、4 : 14～10 : 18 まで続く。

＊ユダヤ教は、レビ的祭司制を土台に発展してきた宗教である。

(3) 御子イエスが大祭司であることは、すでに 2 箇所で出て来た。

①ヘブル 2 : 17

Heb 2:17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。

②ヘブル 3 : 1

Heb 3:1 そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。

2. アウトライン

(1) より優れた場所での奉仕（4 : 14～16）

(2) 大祭司の資格（5 : 1～4）

(3) 御子の資格（5 : 5～10）

結論：

- 1. メルキゼデクとは誰か（創 14 : 18～20）。
- 2. 詩 110 : 4 は、何を示しているのか。

御子がメルキゼデクの位に等しい大祭司であることについて学ぶ。

I. より優れた場所での奉仕（4：14～16）

1. 14 節

Heb 4:14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

(1) アロンの大祭司としての奉仕

- ①大祭司は、神と人の間に立って仲介役を果たす。
- ②大祭司は、贖罪の日に、もろもろの幕を通して至聖所に入る（地上の幕屋）。
- ③大祭司は、いけにえ（ヤギ）の血を捧げる（レビ 16 章）。
- ④人々の罪のためだけでなく、自分の罪のためにも、いけにえを捧げる。
- ⑤大祭司は、毎年これを繰り返す。

(2) イエスの大祭司としての奉仕

- ①イエスもまた、神と人の間に立って仲介役を果たす。
- ②イエスは、もろもろの天を通して天に至聖所に入られた（天の幕屋）。
 - *第1の天と第2の天を通して、第3の天に入られた。
- ③イエスは、ご自身の血を捧げられた。
- ④イエスは、罪を犯したことがないので、自分の罪の贖いをする必要がない。
- ⑤イエスは、ただ一度だけ贖いの業を為し、天の聖所で継続して奉仕をしている。

(3) 適用

①「神の子イエス」

- *「イエス」とは、御子の人間性を示す言葉である。
- *「神の子」とは、御子の神性を示す言葉である。
- *私たちの大祭司は、人であり神である。
 - （ILL）現人神（あらひとがみ）は、「この世に人間の姿で現れたという意味。

②「私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか」

- *「イエスは、主なり」という信仰告白のことである（3：1 参照）。
- *イエスよりも下位の大祭司であるアロンに戻って行くのは、不条理である。

2. 15～16 節

Heb 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

Heb 4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

(1) 私たちの大祭司を信頼すべき理由

①私たちの弱さに同情してくださる。

②その理由は、すべての点で、私たちと同じように試みに会われたからである。

*イエスもまた、人間性の限界を経験された。

*しかし、罪は犯されなかった。

③すべての点で、とは、あらゆる種類の誘惑のことである。

1Jn 2:16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。

(2) 適用

①試練に勝利する方法は、ユダヤ教に回帰することではない。

②大胆に、恵みの御座に近づくことである。

*そこには、私たちの弱さに同情してくださる大祭司がおられる。

③御座に近づく目的は、恵みを受け、おりにかなった助けを受けるためである。

II. 大祭司の資格 (5 : 1~4)

1. 1 節

Heb 5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事がらについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。

(1) 資格①：大祭司は、人でなければならない。

①大祭司は、人々を代表して神の前に立つ。

②キリストもまた、人となられた。

(2) 資格②：大祭司は、罪のために、ささげ物といけにえとを捧げる。

①「ささげ物」とは、「穀物のささげ物」である。

②「いけにえ」とは、「血のささげ物」である。

③レビ的祭司に属する者は、なんらかの形で、この奉仕を行なう。

2. 2~3 節

Heb 5:2 彼は、自分自身も弱さを身にまとっているのです、無知な迷っている人々を思いやることのできるのです。

Heb 5:3 そしてまた、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のため

のささげ物をしなければなりません。

(1) 資格③：大祭司は、無知な迷っている人々を思いやることができる。

- ①人間であるので、これができる。
- ②思いやるとは、無関心でもなく、過剰な感情移入でもない。
- ③「無知」は、罪の源である。
- ④「迷い」（真理からの逸脱）は、罪の結果である。
- ⑤大祭司は、自分の罪のためにささげ物をしなければならない。
- ⑥人々の代表として神の前に立つ前に、清くされる必要がある。
- ⑦しかし、キリストには、その必要はない。

3. 4 節

Heb 5:4 まただれでも、この名誉は自分で得るのではなく、アロンのように神に召されて受けるのです。

(1) 資格④：大祭司は、神から任命を受ける。

- ①自分で大祭司になることを選ぶ人はいない。
- ②アロンは、神から召されて大祭司となった。
- ③出 28 : 1

Exo 28:1 あなたは、イスラエル人の中から、あなたの兄弟アロンとその子、すなわち、アロンとその子のナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを、あなたのそばに近づけ、祭司としてわたしに仕えさせよ。

④民 17 : 8

Num 17:8 その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のためのアロンの杖が芽をふき、つぼみを出し、花をつけ、アーモンドの実を結んでいた。

⑤自分から祭司になろうとした人は、罰を受けた。

*民 16 : 1～15 のコラの反乱

*1 サム 13 : 5～14 のサウル王の越権行為

*2 歴 26 : 16～23 のウジヤ王の越権行為（香を焚こうとした）

(2) 以上述べた大祭司としての 4 つの資格が、御子に備わっているか。

①次の箇所では、御子の資格が吟味される。

III. 御子の資格 (5 : 5～10)

1. 5～6 節

Heb 5:5 同様に、キリストも大祭司となる栄誉を自分で得られたのではなく、彼に、／「あ

あなたは、わたしの子。／きょう、わたしがあなたを生んだ。」／と言われた方が、それをお与えになったのです。

Heb 5:6 別の個所で、こうも言われます。／「あなたは、とこしえに、／メルキゼデクの位に等しい祭司である。」

(1) 「同様に」：資格④が満たされた（神からの任命）。

①キリストも大祭司として父なる神から任命を受けた。

②自分から榮譽を得るために、大祭司となつたのではない。

(2) 「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ」

①これは詩 2 : 7 からの引用である。イエスは、神の子と宣言された。

②キリストの大祭司職は、復活と関連している。

③でなければ、キリストは私たちのための大祭司になることができない。

(3) 「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である」

①詩 110 : 4 からの引用である。イエスは、神から大祭司として任命された。

②レビ的祭司ではなく、メルキゼデクの位に等しい祭司への任命である。

2. 7 節

Heb 5:7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かつて、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。

(1) 資格①が満たされた（人でなければならぬ）。

①キリストは、人間性を持たれた。

②「人としてこの世におられたとき」

＊受肉から復活までの期間

(2) 資格②が満たされた（ささげ物といけにえ）。

①キリストは、祈りと願いを捧げた。

＊祈りとは、具体的な求めである。

＊願いとは、緊急時に守りを求めることである。

②キリストは、叫び声と涙とをもってそれをされた。

＊ゲツセマネの祈りがその代表例である。

③キリストの祈りは、神に受け入れられた。

4. 8～10 節

Heb 5:8 キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、

Heb 5:9 完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、

Heb 5:10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司となえられたのです。

(1) 資格③が満たされた（人々への思いやり）。

①キリストは御子であるのに、多くの苦しみによって従順を学ばれた。

＊従順にはどれくらいの犠牲が伴うかを体験的に知られた。

②十字架の死によって、信じる者を救うことができる救い主となられた。

(2) その結果、メルキゼデクの位に等しい大祭司となられた。

①父なる神が、キリストをメルキゼデクの位に等しい大祭司と呼ばれた。

②著者は、このテーマは読者には難解過ぎると判断した。

Heb 5:11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。

③へブ 7：1 で再度このテーマに戻る。

結論：

1. メルキゼデクとは誰か（創 14：18～20）。

(1) アブラハムの時代にシャレム（エルサレム）の王であった。

①「義なる王」という意味がある。

(2) 彼は、「いと高き神」の名によってアブラムに祝福を与えた。

①彼は王であるが、同時に、いと高き神の祭司でもあった。

②彼は、パンとぶどう酒をアブラムに与えた。

(3) アブラムは、すべての分捕り物の 10 分の 1 を彼に与えた。

(4) メルキゼデクは、その系図が存在しない人物である。

①彼は人であるが、先祖が明らかにされていない。

②その点が、レビ的祭司とは異なる。

2. 詩 110：4 は何を示しているのか。

Psa 110:4 【主】は誓い、そしてみこころを変えない。／「あなたは、メルキゼデクの例になり、／とこしえに祭司である。」

(1) 詩 110 篇は、ダビデの賛歌である。

①メルキゼデクに関しては、系図もなく出生の記録もない。

②ただ、神によって立てられたことだけが強調されている。

(2) 神は、ダビデの子孫から出るメシアが、永遠の大祭司として立てられると約束された。

(3) キリストは、全人類のための大祭司となられた。

①キリストは、人なられた。

②キリストは、いけにえを捧げられた。

③キリストは、人々を思いやることができる。

④キリストは、神からの任命を受けた。

「第 3 の警告（1）－信仰の停滞－」

ヘブル 5：11～14

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。
- ③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

(2) ユダヤ教の 3 つの柱は、天使、モーセ、レビ的祭司である。

- ①御子は、天使に勝るお方であることが証明された。
- ②御子は、モーセに勝るお方であることも証明された。
- ③前回、御子はアロンに勝るお方であることの証明が始まった。

＊このテーマが、4：14～10：18 まで続く。

＊ユダヤ教は、レビ的祭司制を土台に発展してきた宗教である。

＊神殿崩壊（紀元 70 年）以降は、ラビ的ユダヤ教に変質していく。

(3) しかし著者は、この証明を途中でストップし、第 3 の警告を語り始める。

- ①著者は、いわば旧約聖書から講解メッセージを語っている。
- ②彼が今取り上げているテーマは、「メルキゼデクの位に等しい大祭司」である。
- ③前回の箇所最後に出てくる聖句（5：10）を確認してみよう。

Heb 5:10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司となえられたのです。

- ④メルキゼデクのテーマは始まったばかりであるが、著者は、読者にはそれを理解する力がないと判断した。
- ⑤そこで彼は、その先に進むことを中断して、警告の言葉を語ることにした。

2. アウトライン

- (1) 信仰の停滞（11 節）
- (2) 霊的な幼子（12～13 節）
- (3) 霊的な成人（14 節）

結論：

- 1. この箇所の要約
- 2. 神学的重要性

第 3 の警告（1）について学ぶ。

I. 信仰の停滞（11 節）

1. 11 節

Heb 5:11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。

(1) 「この方」

- ①メルキゼデクのことである。
- ②5：1～10 で、「キリストがメルキゼデクのような大祭司」であることが論じられた。
- ③真理が啓示されるとき、それを聞く者には責務が生じる。
(ILL) 学んでも実践が伴わないことへの批判
- ④聖書研究の目的は、それを実生活に適用し、なんらかの実を結ぶためである。

(2) 「私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、」

- ①メルキゼデクについての講解メッセージは、始まったばかりである。
- ②そのメッセージが再開されると、7：1～10：18 まで続く。
- ③そのメッセージは、長いだけでなく、深い真理を解説するためのものである。
- ④メルキゼデク論は、いわば「乳（ミルク）」ではなく、「堅い食物」である。

(3) 「あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です」

- ①この手紙の読者たちは、すでに学んだ真理で満足し、それ以上は求めなかった。
- ②信仰は前進しないと、後退し始める。
- ③読者たちは、「耳が鈍くなっている」。
 - *学ぶ意欲、前に進もうという意欲がなくなっている。
 - *かつては、そうではなかったが、今はそのような状態になった。
- ④学ぶ意欲のない者に、難解な真理を解き明かすことは困難である。

II. 霊的な幼子（12～13 節）

1. 12 節

Heb 5:12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。

- (1) 「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、」
- ①彼らは、信仰を持ってから数年が経っていた。
 - ②彼らは、霊的な幼子ではないはずである。
 - ③つまり、自分よりも信仰経験が浅い人たちに、みことばを教える状態になっていなければおかしいのである。
 - ④にもかかわらず、彼らは信仰の振り出しに戻っている。
- (2) 「神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要がある」
- ①「神のことばの初歩」とは、信仰の初歩、信仰の基礎的なことである。
 - ②彼らは、霊的な幼子に戻っているので、もう一度初歩から学ぶ必要がある。
*信仰の「ABC」である。
- (3) 「あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています」
- ①「乳」とは、初歩的な教えである。
 - ②「堅い食物」とは、より高度な神学的真理である。
*メルキゼデク論は、そのひとつの例である。
 - ③彼らは、かつてそうではなかったが、今は乳を必要とするようになった。
 - ④霊的な成長がなければ、信仰は後退し、いつまでも霊的な幼子の状態に留まる。
 - ⑤それゆえ著者は、7:1 以降で読者たちに「堅い食物」を与え、彼らの信仰を前進させようとする。

2. 13 節

Heb 5:13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。

- (1) 霊的な幼子の特徴
- ①所有している知識を、実行に移していない。
 - ②「義の教えに通じてはいません」
*みことばの知識に欠けているということではない。
*「without experience of the word of righteousness」(ASV)
*知識が行動に結びついていない状態が問題である。
 - ③学んだ真理を体験的に理解していないなら、その人は霊的な幼子に留まる。
- (2) 彼らは、キリストが最終的ないけにえとなられたことを学んだ。
- ①にもかかわらず、ユダヤ教の教えに回帰することを選び始めている。
 - ②これは、学んだことに基づいて生活上の選びをしていない状態である。

③それゆえ彼らは、幼子なのである。

Ⅲ. 霊的な成人（14節）

1. 14節

Heb 5:14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

（1）新共同訳の訳文

Heb 5:14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

（2）「一人前の大人」になることが、信仰者のゴールである。

①信者には、年数に応じた成熟度を達成する責務がある。

②そのような信仰者は、みことばの「食物制限」がない人である。

③彼は、堅い食物を食する。

＊堅い食物とは、固形食物、内容が詰まった食物のことである。

（3）成熟に至る方法

①学んだ真理を実生活に適用する。

②その結果、善悪を見分ける感覚が経験的に身につく。

＊この文脈では、「悪」とは誤った教理である。

＊「善」とは、正しい教理である。

結論：

1. この箇所の要約

（1）この手紙の読者たちは、信仰歴の長い信者たちである。

①彼らは、健全な教理を学んできた。

②彼らは、教師になってもおかしくない立場にある。

（2）しかし彼らは、学んだことを実践に移してこなかった。

①その結果、霊的な成人から、霊的な幼子に逆戻りした。

②それゆえ、信仰の初歩を学び直す必要が出て来た。

③つまり、堅い食物ではなく、乳を必要とするようになったのである。

（3）霊的な幼子と、霊的な成人の差

①教理に関する知識の差ではない。

②霊的な成人だけが、学んだ真理の適用について経験的に知っている。

2. 神学の重要性

(1) 霊的成長の3段階

- ①みことばの理解
- ②理解した真理の適用
- ③霊的成長

(2) 神学の軽視は、信者の霊的成長を阻害する大きな要因である。

- ①みことばの理解がないなら、真理の適用は不可能である。
- ②真理の適用がなければ、霊的成長もまた不可能である。

(3) 多くの信者が、神学に否定的な姿勢を取る理由とは何か。

①神学は、分裂をもたらす。

*これは、聖書に記された神の真理に関する学びを否定することである。

*真理が正しく教えられた時に分裂が起こるなら、その人たちは聖書の真理に同意することを拒否したのである。

②教理は重要ではない。経験こそ重要である。

*私たちの経験は、聖書の真理によって吟味されなければならない。

(ILL) ある神学校でのエピソード。NT Introduction

*新約聖書が最も多く語ってるのは、「誤った教理への警告」である。

③教理は重要ではない。愛と一致こそ重要である。

*教理と愛は、二者択一ではない。

*愛のない教理は、死んだ正統主義になる。

*教理のない愛は、間違った愛になる。

*一致を重視する余り、教理を軽視するなら、真の伝道は不可能になる。

(4) 神が信者に期待しておられること

①聖書の真理を学ぶ（神学的学び）。

②学んだ真理を生活に適用する。

③さらに、学んだ真理を、新しい信者に教える。

*教師の賜物がある人は、それを用いて教会を建て上げていく。

*すべての人が、教師の賜物を持っているわけではない。

*しかし、一対一でみことばを教えることは、すべての信者ができることである。

「第3の警告（2）－信仰の停滞への処方箋－」

ヘブル6：1～8

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。
- ③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

(2) ユダヤ教の3つの柱は、天使、モーセ、レビ的祭司である。

- ①御子は、天使に勝るお方であることが証明された。
- ②御子は、モーセに勝るお方であることも証明された。
- ③御子は、アロンに勝るお方であることの証明が始まった。

(3) しかし著者は、この証明を途中でストップし、第3の警告を語り始める。

- ①著者が今取り上げているテーマは、「メルキゼデクの位に等しい大祭司」である。
- ②著者は、読者にはこのテーマを理解する力がないと判断した。
- ③そこで彼は、その先に進むことを中断して、警告の言葉を語ることにした。
- ④第3の警告（1）の内容は、「信仰の停滞」であった。
- ⑤第3の警告（2）の内容は、「信仰の停滞への処方箋」である。
- ⑥この箇所は、最も論争の激しい箇所の一つである。

(4) 難解な箇所の解釈は、解釈学の原則を意識しながら行なう必要がある。

①ヘブル書全体の文脈

- *ユダヤ教に回帰しようとしているユダヤ人信者を励ますために書かれた。
- *彼らは、すでに救いを経験している。
- *彼らは、迫害を逃れるためにユダヤ教に回帰し、迫害が去ったなら再度悔い改めようと考えていた。

②直前、直後の文脈

- *5：11から始まった第3の警告
- *信仰の停滞への警告
- *前進しないなら、いつまでも霊的な幼子の状態に留まる。

③聖書は聖書によって解釈する。

- *難解な聖句は、他の明確な箇所と調和するように解釈する。
- *聖書の教えに矛盾はない。

2. アウトライン

- (1) 信仰の停滞への処方箋（1～3 節）
- (2) 前進しないことの危険性（4～8 節）

結論： 信仰による救いを保証する聖句

第3の警告（2）について学ぶ。

I. 信仰の停滞への処方箋（1～3 節）

1.1 節 a

Heb 6:1a ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。

(1) 「ですから」

- ①5：11～14 とこの箇所を結びつけている。
- ②霊的な幼子の状態から抜け出し、霊的成熟を目指して進むべきである。
- ③彼らに必要なのは知識ではなく、知っていることを実行に移すことである。

(2) 「キリストについての初歩の教えをあとにして、」

- ①信仰の「ABC」に決着をつけよう。
- ②そして、霊的成熟をめざして進もう。
- ③信仰の「ABC」として、6つのものが上げられている（1b～2 節）。

*2つのものが3セットある。

2. 1b～2 節

Heb 6:1b 死んだ行いからの回心、神に対する信仰、

Heb 6:2 きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。

(1) a 「死んだ行いからの回心」

- ①「死んだ行いの悔い改め」（口語訳）
- ②「repentance from dead works」（ASV）
- ③回心の過程において、レビ的祭儀体系から離れた。

*キリストの死以降、レビ的祭儀体系は無意味なものになった。

*それゆえ、それを実行することは、「死んだ行い」になるのである。

(1) b 「神に対する信仰」

- ①回心の過程において、キリストに信頼を置いた。
- ②それは、一度限りの決断であった。
- ③彼らは、恵みにより、信仰によって救われた。

(2) a 「きよめの洗いについての教え」

- ①「種々の洗礼についての教え」（新共同訳）
- ②ユダヤ教の「水の洗い」（9：10）
- ③クリスチャンの洗礼も含む可能性もある。
 - *キリストの名による洗礼は、ユダヤ教との決裂を意味する。

(2) b 「手を置く儀式」

- ①旧約聖書では、これは祝福を与える方法であった。
 - *新約聖書にもこれが継承されている（マタ 19：13、使 8：17）。
- ②旧約聖書では、これはある職責や任務に就かせるための方法であった。
 - *新約聖書では、長老や執事の任命がこの例（使 6：6、1 テモ 4：14、5：25）。
- ③旧約聖書では、これは同一化の方法であった。
 - *祭司が、いけにえの動物に手を置く（レビ 1：4、16：21）。
 - *「手を置く儀式」が上げられているのは、ユダヤ教のセクトの教えと関係していたからであろう。

(3) a 「死者の復活」

- ①旧約聖書でも、教えられていた（ヨブ 19：25、イザ 26：19、ダニ 12：2）。
- ②キリストの復活により、死者の復活が保証された。

(3) b 「としえのさばき」

- ①白い御座の裁き
- ②燃える火の池

(4) 以上の 6 つのものは、「信仰の ABC」である。

- ①みことばの「乳」である。
- ②信仰の初期に決着をつけておくべき項目である。
- ③放棄するのではなく、乗り越えるのである。

3.3 節

Heb 6:3 神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。

(1) 成熟を目指して進むことは、神の御心である。

①神は、そのことをお許しになる。

(2) 信者が「信仰のABC」を後にして前進すれば、霊的成熟は可能になる。

①もし霊的成熟がないなら、それは信者の責任である。

②ユダヤ人信者の多くが、ユダヤ教への回帰を考えていた。

③それは、不可能であると同時に、非常に危険なことである。

II. 前進しないことの危険性（4～8節）

1. 4～6節

Heb 6:4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、

Heb 6:5 神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わったうえで、

Heb 6:6 しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。

(1) 解釈①：クリスチャンも救いを失うことがある。

①これは、種々の解釈の中で最も非聖書的なものである。

②救いは神の御業である。

③一度救われた人が救いを失うことはない。

(2) 解釈②：ここに書かれている人たちは、最初から救われていなかった。

①今までの文脈から見ても、彼らは救われている。

②彼らは、クリスチャンとしての霊的体験をしている。

(3) 解釈③：ここに書かれていることは、仮定のことである。

①「もし墮落してしまうなら」という意味である。

②しかし、ギリシア語の原文には「もし」という言葉はない。

③これが仮定なら、そもそも警告を発する意味がない。

(4) 解釈④：ここに書かれていることは、報酬を失うという意味である。

①この解釈には、多少の真理が含まれているが、それだけではない。

(5) 解釈⑤：著者の意図だと思われる解釈

①彼らは、救いを経験した信者たちである。

＊「一度光を受けて天からの賜物の味を知り」

＊「聖霊にあずかる者となり」

＊「神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わった」

②彼らには、2 つの選択肢がある。

＊ユダヤ教に回帰し、迫害が去ったなら、再び救われようとする。

＊しかし、これは不可能である（It is impossible が文頭に出てくる）。

・「自分で神の子をもう一度十字架にかけて」

・キリストが再び地上に戻ってきて十字架にかかることはあり得ない。

・「恥辱を与える」

・キリストの贖いの御業は不完全だったと表明することになる。

＊それゆえ、前進するという選りしかない。

③もうひとつの選択肢

＊ユダヤ教に回帰し、紀元 70 年の裁きを受ける。

＊この裁きは肉体的裁きである。

＊これによって、救いを失うわけではない。

2.7～8 節

Heb 6:7 土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。

Heb 6:8 しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。

(1) 自然界を通した教訓

①雨は、神の祝福である。

②土地は、信者である。

③雨はすべての土地に降るが、結果は異なる。

④耕す人がいる土地は作物を生じ、そうでない土地はいばらやあざみを生じる。

⑤信者も、それと同じである。

＊成熟を目指して進む信者と、霊的な幼子の留まる信者がいる。

(2) 2 種類の信者の結末

①霊的な成熟を目指して進む信者は、祝福を受ける。

＊千年王国における祝福である。

②霊的な幼子の状態にある信者は、神の裁きを受ける。

＊地上での裁き（肉体的死も含む）

＊キリストの裁きの御座で行なわれる裁き（1 コリ 3：10～15）

結論：信仰による救いを保証する聖句

1. ヨハ 10：27～28

Joh 10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

Joh 10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

2. ヨハ 10：29

Joh 10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

3. ロマ 8：1

Rom 8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

4. ロマ 8：33

Rom 8:33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

5. ロマ 8：34～39

Rom 8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。

Rom 8:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

Rom 8:36 「あなたのために、私たちは一日中、／死に定められている。／私たちは、ほふられる羊とみなされた。」／と書いてあるとおりです。

Rom 8:37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

Rom 8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、

Rom 8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。